

5

③ たきちょう たきちょう せいわ 多気町の多気町勢和地域資源保全・活用協議会【大豆】

取組のポイント 農家レストラン・加工場に地元大豆を供給し、農村を活性化

環境保全のための取組

取組内容	化学肥料と化学合成農薬の使用を、慣行栽培から5割以上低減
実施者	丹生営農組合
22年度実施面積	大豆19ha
環境保全のための農家の努力	<ul style="list-style-type: none"> ① 土壌診断に基づく施肥 → 診断結果により肥料等の過剰投入を防止 ② たい肥等有機質資材・肥料の局所施用・肥効調節型肥料の利用 → 生物由来の資材や肥料の効果的利用で化学肥料を低減 ③ 温湯種子消毒技術の利用 → 化学合成農薬を使用しないで高温のお湯で種子を消毒 ④ 浅水代かきの実施 → 田植準備の濁水を少なくして水質を保全 ⑤ フェロモン剤の利用 → 害虫の発生を予測して化学合成農薬を低減

環境保全のPR と 消費者等との連携

地元の農家レストランや加工場、体験工房に大豆を供給して、地産地消とともに地域活性化を進めています。
加工場で大豆が豆腐・油揚げ・味噌等に加工されて、学校給食へ提供されています。
水土里ネット立梅用水のホームページで情報提供されています。
あじさいまつり、農村体験、都市との交流等により地域の活性化を進めています。

活動の写真集



化学肥料と化学合成農薬を5割以上低減して大豆を生産



地元小学生の田植体験や都市住民の農村体験を実施



農家レストラン「せいわの里まめや」



「まめや」では地元の大豆や食材を使ったバイキングを提供



ビオトープ(生物の生息空間)を作り、自然とのふれ合いや環境学習を実施



あじさいまつりを実施し、都市との交流、地域を活性化

環境保全型営農活動(大豆)とコミュニティビジネスの連携 (丹生地区・・・集落営農組合・農業法人「まめや」)

